

厳しい決算内容が目立った米ハイテク株の行方



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① GAFAMの時価総額が大きく減少

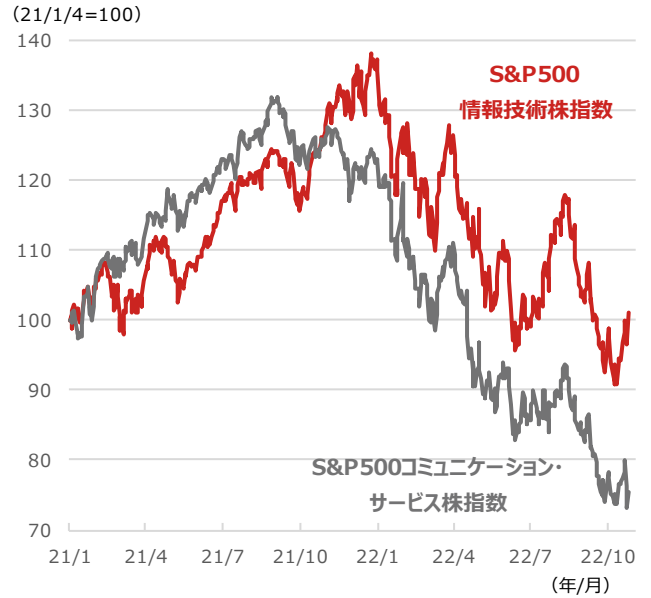
米ハイテク大手のGAFAM（グーグルの親会社のアルファベット、アップル、フェイスブックを運営するメタ・プラットフォームズ、アマゾン・ドット・コム、マイクロソフト）が先週発表した7-9月期決算で、市場予想を下回る内容が目立ち、5社の時価総額は26、27日の2営業日で合計約6,700億米ドル減少しました。28日には前日の取引終了後に市場予想を上回る決算を発表したアップルがけん引し、GAFAMの時価総額は同2,000億米ドル近く増加しましたが、自律反発の域を出ていません（右上図）。業績改善が確認されるまでは、米ハイテク株の不安定な動きは続きそうです。

ポイント② 再び成長軌道に回帰できるかが焦点

GAFAMの成長鈍化の背景には、米ドル高の逆風に加え、従来主軸となってきた事業の成熟化やネット広告市場の構造変化などが重なったことがあります。GAFAM5社合計の売上高は2016年以来となる2四半期連続の1桁成長にとどまっており、再び成長軌道に回帰できるかが焦点となります。

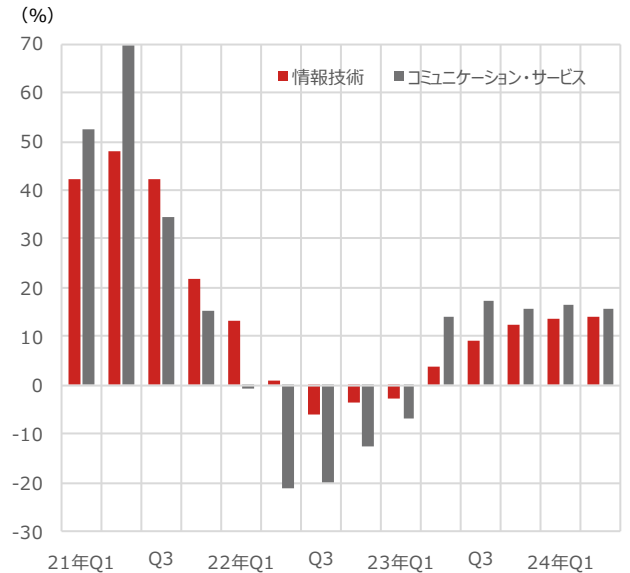
もっともGAFAMは、AI（人工知能）やクラウド、コンテンツサービスといった成長分野に巨額の研究開発費を投じ続けるなど、未来への種まきを継続していることは先々の業績再拡大を後押しする材料といえます。市場では米ハイテク業種の業績が、最悪期を脱しつつあり、今後は減益幅が縮小し、来年には2桁成長に回帰するとみられています（右下図）。また足元では、これまで株価の逆風となってきたFRB（米連邦準備制度理事会）の積極的な金融引き締め姿勢が和らぐ可能性も出てきていることから、米ハイテク株は下値を固めながら戻り余地を探る展開が想定されます。

S&P500情報技術株とコミュニケーション・サービス株指数



期間：2021年1月4日～2022年10月28日、日次
・アップル、マイクロソフトはS&P500情報技術株指数構成銘柄、アルファベット、メタ・プラットフォームズはS&P500コミュニケーション・サービス株指数構成銘柄
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500のハイテク業種のEPS前年同期比増減率



期間：2021年Q1（1-3月期）～2024年Q2（4-6月期）、四半期
・2022年Q3以降は10月28日時点のBloomberg予想
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。